



2024年7月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年12月11日

上場会社名 株式会社 メディアシーク
コード番号 4824 URL <https://www.mediaseek.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西尾 直紀
問合せ先責任者 (役職名) 取締役業務管理部長 (氏名) 市橋 哲
四半期報告書提出予定日 2023年12月14日
配当支払開始予定日
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
TEL 03-5423-6600

(百万円未満切捨て)

1. 2024年7月期第1四半期の連結業績(2023年8月1日～2023年10月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年7月期第1四半期	240	19.2	19	304.7	42	119.7	27	88.1
2023年7月期第1四半期	202	15.0	4	85.6	19	58.9	14	65.4

(注) 包括利益 2024年7月期第1四半期 98百万円 (%) 2023年7月期第1四半期 14百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年7月期第1四半期	2.78	
2023年7月期第1四半期	1.48	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年7月期第1四半期	3,734	3,058	81.3	311.76
2023年7月期	3,856	3,166	81.6	322.89

(参考) 自己資本 2024年7月期第1四半期 3,037百万円 2023年7月期 3,146百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2023年7月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年7月期		0.00		1.00	1.00
2024年7月期(予想)		0.00		1.00	1.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年7月期の連結業績予想(2023年8月1日～2024年7月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	475	12.7	32	22.0	64	79.6	43	65.1	4.41
通期	924	6.1	43	3.5	92	17.7	61	1.1	6.26

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年7月期1Q	9,766,800 株	2023年7月期	9,766,800 株
期末自己株式数	2024年7月期1Q	23,345 株	2023年7月期	23,345 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年7月期1Q	9,743,455 株	2023年7月期1Q	9,743,455 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和されたこと等により、緩やかな回復の兆しがみられる一方で、ウクライナ情勢の長期化や、原材料価格の高騰による物価上昇等、経済の先行きに係る不確実性は依然として高い状況が続いております。

当社グループは、「善いものを生みだし続ける」を経営理念に定め、既にビジネスモデルの確立した事業を堅実かつ安定的に成長させると同時に、ここで獲得した資金を原資に継続的に新規事業領域への投資を行うことで、企業体の存続と新規ビジネスモデルの生成を永続的に両立させることを経営方針としており、引き続きコーポレートDX、画像解析・AI、ライフスタイルDX、ブレインテック・DTx及びベンチャーインキュベーションの5つの事業領域をターゲットにビジネス展開を行っております。

働き方改革及びテレワークの浸透並びに業務プロセスの効率化等のDXの推進によりITサービスの需要は堅調に拡大しております。当社グループは、これらの状況を踏まえた上で、新たな市場トレンドに対応した成長市場向けサービス強化と新規ビジネス拡大を進めております。また、社内体制整備の側面においても、働き方改革及びテレワークの社会的普及のトレンドを先取る形で首都圏在住にこだわらない流動的かつ機動的なエンジニア確保のスキーム構築を進めており、一定の成果が表れております。

当第1四半期連結累計期間においては、「コーポレートDX」ビジネスユニットにおいて、国内の法人クライアントに対するシステムコンサルティング業務による売上を計上しました。「画像解析・AI」ビジネスユニットにおいては、スマートフォン向け無料提供アプリ「バーコードリーダー/アイコンット」を中心に、主にスマートフォン向け広告収入による売上を計上しました。「ライフスタイルDX」ビジネスユニットにおいては、当社オンラインプラットフォーム「マイクラス」による売上のほか、スマートフォン向けゲーム等各種情報サービスによる売上を計上しました。「ブレインテック・DTx」ビジネスユニットにおいては、DTx、認知機能チェック、医療SI及びNFBエンジン提供等の各種領域で研究開発及び新規事業構築活動を行っております。「ベンチャーインキュベーション」ビジネスユニットにおいては、有望なスタートアップ企業、各種ベンチャー企業に対するインキュベーションサービスに伴う活動を実施しました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、240,911千円(前年同期比19.2%増)、営業利益は、19,674千円(前年同期比304.7%増)、経常利益は、42,721千円(前年同期比119.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、27,068千円(前年同期比88.1%増)となりました。「ライフスタイルDX」ビジネスユニットにおいて展開する「マイクラス」の受注が引き続き好調であること等が主要因となり、前年同期に比べて大幅な増収増益となっております。

セグメントごとの経営成績は以下の通りです。

(コーポレートDX)

「コーポレートDX」ビジネスユニットにおいては、主に国内の法人クライアントに対するシステムコンサルティングサービスを実施しました。その結果、同ビジネスユニットの当第1四半期連結累計期間の売上高は、81,795千円(前年同期比2.4%増)、セグメント利益は、40,273千円(前年同期比28.7%増)となりました。国内におけるDXの推進によるITサービスの需要拡大の流れを受け、売上高及びセグメント利益は前年同期に比べ増加しております。また、引き続き、首都圏在住にこだわらない流動的かつ機動的なエンジニア確保のスキームの構築を進めております。その結果、以下の表のとおり、セグメント利益率が上昇傾向にあり、生産性の向上がみられる結果となっております。

	2021年7月期 第1四半期 (注)	2022年7月期 第1四半期	2023年7月期 第1四半期	2024年7月期 第1四半期
セグメント利益率	12.8%	45.3%	39.2%	49.2%

(注) 2021年7月期第1四半期の値は、連結離脱した株式会社デリバリーコンサルティングの活動に起因した売上高及びセグメント利益を除外して算出しております。

(画像解析・AI)

「画像解析・AI」ビジネスユニットにおいては、主に累計3,500万ダウンロードを達成したスマートフォン向け無料提供アプリ「バーコードリーダー/アイコンット」を中心としたスマートフォン向け広告収入のほか、各種ライセンス提供に基づく売上を計上しました。また、次世代のサービスを開発するため、社内での研究開発を積極的に進めております。その結果、同ビジネスユニットの当第1四半期連結累計期間の売上高は、66,709千円(前年同期とほぼ同額)、セグメント利益は、20,463千円(前年同期比34.0%減)となりました。

(ライフスタイルDX)

「ライフスタイルDX」ビジネスユニットにおいては、当社オンラインプラットフォーム「マイクラス」による売上を計上しました。「マイクラス」のクライアントであるカルチャーセンター業界は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により業界再編が進み中小カルチャーセンターの事業撤退が発生している一方で、経営の効率化を迫られた大手カルチャーセンターの情報設備投資が促進されている状況にあります。更に、新型コロナウイルス感染症の収束により、市場規模そのものも回復基調にあります。このような状況下において、商品力の高い「マイクラス」は、大手カルチャーセンターから多くの引き合いがある状況にあり、前年同期比で大きな増収増益となっております。この状況はしばらく継続する見込みとなっております。この他、スマートフォン向けゲーム等各種情報サービスによる売上を計上しました。特に前連結会計年度中に、タイの人気ドラマに出演する複数の俳優をモデルにしたファン向けデジタルサービス(ファンゲーム、フォトフレームアプリ、SNSスタンプ等)を提供する「BOYS MEETING from Thailand」を開始しており、順調な滑り出しを見せております。その結果、同ビジネスユニットの当第1四半期連結累計期間の売上高は、92,167千円(前年同期比65.5%増)、セグメント利益は、31,751千円(前年同期比307.8%増)となりました。

(ブレインテック・DTx)

「ブレインテック・DTx」ビジネスユニットにおいては、DTx、認知機能チェック、医療SI及びNFBエンジン提供等の各種領域で研究開発及び新規事業構築活動を行っております。接骨院・鍼灸院の支援事業を展開するアトラグループ株式会社と合意した、脳波を活用したヘルステック事業のサービス開発は、2023年8月にブレインテックトレーニングサービスとして提供を開始しております。当該サービスは、当第1四半期連結会計期間末においてはプレマーケティングの段階であり、売上高は計上されておられません。当連結会計年度の下半期に向けて本格的な収益化を達成すべく活動を継続しております。このほか、当社が独自開発したブレインテックエンジン「ALPHA SWITCH」を活用したアプリによる売上や、各種コンサルティングサービスに基づく売上を計上しました。

その結果、同ビジネスユニットの当第1四半期連結累計期間の売上高は、238千円(前年同期比88.6%増)、セグメント損失は、12,247千円(前年同期は10,114千円のセグメント損失)となりました。当該セグメントの売上高は、僅少な値となっておりますが、これは、当該セグメントの活動が当第1四半期連結累計期間において、事業立ち上げのフェーズにあり本格的に売上高を計上するフェーズにないためです。

(ベンチャーインキュベーション)

「ベンチャーインキュベーション」ビジネスユニットにおいては、有望なスタートアップ企業、各種ベンチャー企業に対するインキュベーションサービスに伴う活動を実施しました。なお、当第1四半期連結累計期間で一部売上高及び利益が発生しておりますが、これらは、全社管理部門で発生した費用及び「コーポレートDX」ビジネスユニットで計上された売上高及びセグメント利益と切り分けが困難であるため、当該ビジネスユニットに値を含めております。なお、当第1四半期連結累計期間に計上されているその他有価証券評価差額金のうち、800,033千円は、同ビジネスユニットの活動に起因したものとなります。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

①資産の部

資産の総額は、3,734,728千円(前連結会計年度末比3.2%減)です。

流動資産は、総資産の20.5%に相当する767,352千円(前連結会計年度末比6.0%増)です。流動資産の前連結会計年度からの増加額は、43,652千円となっておりますが、この主要因は、売掛金及び契約資産が41,430千円増加したことによるものです。また、現金及び預金の残高は、434,465千円(前連結会計年度末比1.4%減)となっており、流動資産のその他に含まれる預け金の残高は、25,687千円(前連結会計年度末比3.0%増)となっております。これらは、いずれも現金及び現金同等物に相当し、合計で460,153千円(前連結会計年度末比1.1%減)となっており、流動資産の大きな割合を占めております。なお、現金及び預金の減少は、主として「マイクラス」の大口受託開発案件が増加したことにより、一時的に売掛金及び契約資産が増加したことによるものです。

固定資産は、総資産の79.5%に相当する2,967,376千円(前連結会計年度末比5.3%減)です。

有形固定資産は、総資産の0.8%に相当する28,235千円(前連結会計年度末比5.0%減)です。

無形固定資産は、該当するものが無いため(前連結会計年度末も該当するものがございません)残高が計上されておられません。

投資その他の資産は、総資産の78.7%に相当する2,939,140千円(前連結会計年度末比5.3%減)です。投資その他の資産の前連結会計年度からの減少額は164,286千円となっておりますが、この主要因は、余資運用の一環として投資有価証券を売却したこと及び保有する投資有価証券の時価が一部減少したこと等により、投資有価証券が164,175千円減少したことによるものです。なお、貸倒引当金が26,650千円計上されておりますが、投資その他の資産のその他に含まれる長期滞留債権26,650千円に対応して計上されたものになります。債権全額に対して貸倒引当金が設定されているため、貸倒れの確定による多額の追加損失発生の恐れはありません。なお、投資有価証券が2,867,031千円計上されておりますが、この98.8%に相当する2,832,246千円は時価を有する性質のものです。

②負債の部

負債の総額は、負債純資産合計の18.1%に相当する676,612千円(前連結会計年度末比2.0%減)です。

流動負債は、負債純資産合計の4.7%に相当する176,331千円(前連結会計年度末比11.2%増)となっております。流動負債の前連結会計年度からの増加額は、17,711千円となっておりますが、この主要因は、1年内返済予定の長期借入金が8,560千円増加したことによるものです。

固定負債は、負債純資産合計の13.4%に相当する500,281千円(前連結会計年度末比5.9%減)となっております。前連結会計年度からの減少額は、31,436千円となっておりますが、この主要因は、長期借入金が増加した一方で、繰延税金負債が53,786千円減少したことによるものです。

③純資産の部

純資産の総額は、3,058,116千円(前連結会計年度末比3.4%減)であり、自己資本比率は、81.3%と高い水準を維持しております。純資産の前連結会計年度からの減少額は、108,396千円となっておりますが、この主要因は、以下の通りです。9,743千円の配当を実行した一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益を27,068千円計上したことにより利益剰余金が17,324千円増加しました。一方で、保有する投資有価証券を売却したこと及び保有する投資有価証券の時価が一部減少したこと等により、その他有価証券評価差額金が125,732千円減少しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向を踏まえ、2023年9月11日公表の第2四半期業績予想の数値を修正しました。詳細につきましては、本日公表の「2024年7月期第2四半期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。なお、2024年7月期通期業績予想については、第3四半期連結会計期間以降も「マイクラス」の引き合いが好調に推移する前兆がある一方で、現時点において受注が未確定であり、また、新規事業への戦略的な追加投資の可能性がある等、いくつかの未確定要素が含まれていることから、予想を据え置きといたします。他の要因を含め修正が必要と判断される場合には、速やかに開示いたします。

当該予想については、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものです。実際の業績は、様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

(注) 業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものです。予想に様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合がありますので、この業績予想に全面的に依拠して投資等の判断を行うことは差し控えられるようお願いいたします。また、実際の業績は、様々な要因により本業績予想とは異なる結果となり得ることをご承知おきください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年7月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	440,510	434,465
売掛金及び契約資産	215,411	256,841
商品	1,652	1,568
仕掛品	3,729	8,556
その他の棚卸資産	15,010	9,381
その他	47,391	56,543
貸倒引当金	△6	△6
流動資産合計	723,699	767,352
固定資産		
有形固定資産	29,723	28,235
投資その他の資産		
投資有価証券	3,031,207	2,867,031
その他	98,870	98,760
貸倒引当金	△26,650	△26,650
投資その他の資産合計	3,103,426	2,939,140
固定資産合計	3,133,149	2,967,376
資産合計	3,856,849	3,734,728

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年7月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年10月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	10,885	11,217
1年内返済予定の長期借入金	69,572	78,132
未払法人税等	9,744	15,463
賞与引当金	11,300	16,238
その他	57,117	55,280
流動負債合計	158,619	176,331
固定負債		
長期借入金	70,909	93,241
繰延税金負債	453,613	399,827
資産除去債務	7,194	7,212
固定負債合計	531,717	500,281
負債合計	690,336	676,612
純資産の部		
株主資本		
資本金	823,267	823,267
資本剰余金	1,029,669	1,029,669
利益剰余金	291,602	308,927
自己株式	△39,724	△39,724
株主資本合計	2,104,814	2,122,139
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,041,207	915,474
その他の包括利益累計額合計	1,041,207	915,474
非支配株主持分	20,491	20,502
純資産合計	3,166,513	3,058,116
負債純資産合計	3,856,849	3,734,728

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年8月1日 至2022年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年8月1日 至2023年10月31日)
売上高	202,137	240,911
売上原価	130,053	134,568
売上総利益	72,084	106,342
販売費及び一般管理費	67,222	86,667
営業利益	4,861	19,674
営業外収益		
受取利息	8,452	9,271
受取配当金	1,915	2,369
投資有価証券売却益	2,097	11,815
その他	3,816	1,053
営業外収益合計	16,281	24,509
営業外費用		
支払利息	532	435
投資有価証券売却損	117	—
支払手数料	1,037	1,026
その他	10	—
営業外費用合計	1,699	1,462
経常利益	19,444	42,721
税金等調整前四半期純利益	19,444	42,721
法人税、住民税及び事業税	3,587	13,937
法人税等調整額	1,671	1,704
法人税等合計	5,258	15,641
四半期純利益	14,185	27,079
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△202	11
親会社株主に帰属する四半期純利益	14,388	27,068

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2022年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2023年10月31日)
四半期純利益	14,185	27,079
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	705	△125,732
その他の包括利益合計	705	△125,732
四半期包括利益	14,891	△98,653
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	15,094	△98,664
非支配株主に係る四半期包括利益	△202	11

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年8月1日 至 2022年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)2	合計	調整額 (注)1,3	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)4
	コーポレー トDX (注)1	画像解析・ AI	ライフスタ イルDX	ブレインテ ック・DT x	計				
売上高									
一時点で移転さ れる財	31,985	66,011	40,801	73	138,872	—	138,872	—	138,872
一定期間にわたり 移転される財	47,876	445	14,891	52	63,265	—	63,265	—	63,265
顧客との契約から 生じる収益	79,861	66,456	55,693	126	202,137	—	202,137	—	202,137
外部顧客への売 上高	79,861	66,456	55,693	126	202,137	—	202,137	—	202,137
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	79,861	66,456	55,693	126	202,137	—	202,137	—	202,137
セグメント利益 又は損失(△)	31,286	31,020	7,785	△10,114	59,978	△4,945	55,032	△50,170	4,861

(注) 1 主に、株式会社メディアシークキャピタルで発生するベンチャーインキュベーションのビジネスユニットで発生した活動は、一部全社管理部門及びコーポレートDXセグメントで発生した活動との切り分けが困難であるため、これらに含めております。

2 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主として研究開発部門の新規領域での事業活動等になります。

3 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、全社管理部門の費用です。

4 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年8月1日 至 2023年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)2	合計	調整額 (注)1,3	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)4
	コーポレー トDX (注)1	画像解析・ AI	ライフスタ イルDX	ブレインテ ック・DT x	計				
売上高									
一時点で移転される財	36,012	59,878	58,209	83	154,184	—	154,184	—	154,184
一定期間にわたり移転される財	45,783	6,830	33,957	155	86,726	—	86,726	—	86,726
顧客との契約から生じる収益	81,795	66,709	92,167	238	240,911	—	240,911	—	240,911
外部顧客への売上高	81,795	66,709	92,167	238	240,911	—	240,911	—	240,911
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	81,795	66,709	92,167	238	240,911	—	240,911	—	240,911
セグメント利益又は損失(△)	40,273	20,463	31,751	△12,247	80,240	△8,095	72,144	△52,470	19,674

(注) 1 主に、株式会社メディアシークキャピタルで発生するベンチャーインキュベーションのビジネスユニットで発生した活動は、一部全社管理部門及びコーポレートDXセグメントで発生した活動との切り分けが困難であるため、これらに含めております。

2 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主として研究開発部門の新規領域での事業活動等になります。

3 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、全社管理部門の費用です。

4 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。